

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・**実施結果**)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりが「確かな学力」を身に付けるため、組織的な授業改善を推進するとともに、個に応じた学習の機会を提供する。</p> <p>②部活動、生徒会活動を活性化させ、生徒の自主性、主体性を育む。</p>	<p>①「確かな学力」育成の基本となる新たな教育課程を編成する。</p> <p>②部活動の定着率を高める。</p>	<p>①教務・情報管理グループを中心に各教科が「確かな学力育成」に向けた教育課程づくりに取組む。</p> <p>②業務の効率化を図ることで、教職員が部活動指導にあたる時間を確保する。</p>	<p>①新たな教育課程を作成し、保護者、生徒に提示することができたか。</p> <p>②部活動の定着率を昨年度よりも向上させることができたか。</p>	<p>①1単位時間を45分から50分への変更、5時間授業日の設定等、授業時間数の確保と生徒への確かな学力の定着を目指した新たな教育課程を編成した。</p> <p>②1学年については年度当初に部活動見学を実施し全員の生徒が登録を行った。また、体育祭・文化祭では3年生を中心に積極的な取組が見られ学校生活に好影響を及ぼした。</p>	<p>①生徒一人ひとりに対する個に応じた指導を充実させるために、授業内での効果的学習活動の展開や校内外の多様な人材を活用した学習支援の機会を充実させていく必要がある。</p> <p>②経済的理由も含め部活動を継続できない状況があるので、担任と部活動顧問の連携をより密にするなど退部率の減少に向けて改善を進めていく必要がある。</p>	<p>①生徒は比較的落ち着いているが、先般、授業見学をした際に生徒主体の授業という点からの面白さは教員によってまちまちであった。学校全体として、授業力向上のための取組が必要である。</p> <p>①かつて自分が経験した時代とは違って、授業内容も方法も大きく変化しており、教員が学ぶべき事柄は多岐に亘ると感じた。</p>	<p>①英語科や数学科における習熟度別授業や自主教材による「学び直し」の取組の定着や各教科でグループワークや発表活動の積極的な導入が図られたので、さらに学校全体での組織的な取組に繋げる必要がある。</p> <p>②生徒対象のアンケート調査で今年1年間で頑張ったことについて「部活動」「部活動と勉強の両立」と答えた者が多く見られた。部活動が学校生活全般に好影響を与えて来ているので、今後とも部活動への定着率向上に努めていきたい。</p>	<p>①確かな学力を育成し定着させるため生徒主体の効果的な学びの方法について授業研究を進める。</p> <p>①様々な人材を登用し放課後等を有効活用した学習支援の機会を設ける。</p> <p>①教科会の実施時期や内容の工夫を行う。</p> <p>②部活動顧問と担任との横の連携を図り定着率の向上に取り組む。</p> <p>②学校行事において上級生が下級生に対し積極的な働きかけが行え、様々な活動が継承されていくよう学年団の縦の繋がりを重視した指導を行う。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①基本的な生活習慣の確立を図り、生徒の自己指導能力を育成する。</p> <p>②生徒一人ひとりの課題に対応した支援体制を構築する。</p>	<p>①予防的生徒指導を行い、生徒の“自律”を支援する。</p> <p>②SC*1、SSW*2と連携し“困り感”を抱える生徒に対して適切に対応する。</p>	<p>①集会や面談等により教職員から積極的に生徒の自覚を促す指導を継続する。</p> <p>②SC、SSW、CO*3と三者が連携し、教職員全体で情報を共有する体制を整備する。</p>	<p>①生徒指導件数を昨年度よりも減少させることができたか。</p> <p>②新たな生徒支援体制の整備により、生徒の課題を解決することができたか。</p>	<p>①生徒指導件数は昨年度とほぼ変わらなかった。特に繰り返しの指導を受ける生徒が複数名いた。しかし、学年を追うごとに指導件数は減少しているので、自律に対する支援は一定の効果あげている。</p> <p>②各学年に生徒相談担当教員を配置しSC、SSW、COが有機的に連携し生徒の支援にあたる体制を整えるとともに、必要に応じて児童相談所等の関係機関と密な連携を図り生徒支援を行った。</p>	<p>①入学前の段階から本校のルールを生徒・保護者により周知していく必要がある。また、出欠席等管理システム(SSK)を活用して予防的指導を徹底していく必要がある。</p> <p>②カウンセリング等の相談件数や外部関係機関との連携による生徒支援の件数は年々増加しているので体制の強化と人材の確保は喫緊の課題である。</p>	<p>①1000人以上の生徒がいて暴力事件等重大案件が表面化していないのは生徒指導、支援の成果が上がっていると思われる。</p> <p>①志願者が増加しているのは生徒指導を中心とした学校全体の取組が中学生やその保護者に浸透しているからではないか。</p>	<p>①生徒対象のアンケート調査にも「人を傷つけないことを心がけた」「社会にはいろいろな人がいることを知った」等、自立と自律に対する支援が効果を上げている回答があった。このような生徒が少なからずいることを生徒、教員が共有し生徒への働きかけを継続して行く。</p> <p>②校内の生徒支援体制が整備され、外部関係機関との連携も進んだので、体制の強化と連携の促進を行っていきたい。</p>	<p>①生徒の自立と自立を促すために、生徒間の気づきの共有化を進める方策を取入れていく。</p> <p>①出欠席等管理システム(SSK)を有効に活用し生徒情報の共有化を進めていく。</p> <p>②定期的なケース会議の実施や学年会における情報交換を充実させていく。</p> <p>②外部関係機関との継続的連携を進め、必要に応じて関係者を招いた研修会等を実施していく。</p>

*1 スクールカウンセラー

*2 スクールソーシャルワーカー

*3 教育相談コーディネーター

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の社会的・職業的自立を目指したキャリア教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自らの進路を意識し、その実現に向けた取組みへの支援を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとに進路の目標を定め、「総合的な学習の時間」等において取組みをすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の進路決定率が昨年度(96%)を上回ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間を通じたガイダンスは1学年は高校生活の目標の明確化や勤労観、職業観の育成、2学年は修学旅行の事前事後を通じたコミュニケーション能力の育成、3学年は個々の進路に応じた個別指導の徹底をそれぞれテーマとして実施した。 3学年の進路決定率は昨年度とほぼ同じ(95%)だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間の企画運営については、3年間を見越したより体系的な計画を立て職員全体での共通理解を図って行く必要がある。 ボランティアやインターンシップなどの体験活動を効果的に活用して将来設計を生徒に考えさせて行く必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の視点から見ても、それを充実される一つの方策として中学校との連携は大切にしたい。 昨今の大学生は書く力が低下していると感じる。進路支援においても「言語活動の充実」という視点から取組を進めることも必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定率はほぼ昨年と同じであったが、特に生徒の現実と進路先とのミスマッチを防ぐ指導を重視して行うとともに最後まで諦めさせない粘り強い取組が行えた。 ボランティアやインターンシップなどの体験活動については、広報活動を工夫してより多くの生徒の参加を促す取組みを展開する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的かつ現実的な進路選択を1学年の段階から意識させる指導を行う。そこに体験活動等を絡ませていく。 授業の中にキャリア教育の視点を取入れた指導を展開して行く。特に言語活動の充実には留意する。 総合的な学習の時間の企画運営では学年間の繋がりを意識し組織的な展開を行う。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 地域、家庭との連携を深め信頼される学校づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動等の活動を積極的に地域に発信することで地域からの信頼を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> HPによる情報発信や地域のイベントへの生徒参加などの取組みをすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> HPの更新回数を昨年度よりも向上させるとともに、地域のイベント参加の機会を設定できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域清掃、地域防災スクールの実施、町内会掲載等、幾つかの連携を実施した。また、学校HPの更新はあまり円滑に進まなかった。 中学生とその保護者に対する広報活動は、来場者が1.3倍になると同時に、本校への志願者も増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPの運用については機会に応じた情報発信ができるよう校内体制を整備する必要がある。また、地域と繋がる機会はいくつか設定されているので、職員がそれをどう活用しているか、また地域への貢献につなげて行くか、更に検討を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域関係者との交流がなく、様々な面で変化が生じている学校についての情報が伝わってこない。地域にある様々な団体を活用して地域貢献に努めるべきである。 小中学校に対し学校施設等の貸し借りかから連携を深めて行くのも一つの手段である。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携活動として定着している行事は幾つかあるが、単発的な取組である。多くの生徒が関わられるような活動を組織的に展開していく必要がある。 広報活動は学校ホームページの運営を除き、新しい試みや工夫が取入れられるとともに、部活動等の協力により学校をあげての取組となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域から様々なイベント等の情報を積極的に収集して、可能な範囲で教職員が参加できるようにする。 学校ホームページの運用方法を再検討する。 中学生とその保護者に対する広報活動を更に充実させる。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 事故・不祥事防止に教職員が学校一丸となって取組むとともに、学校全体の教育力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学者選抜業務、成績関連業務について事故を起こさない体制を確立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務内容を再点検し、マニュアル等の見直しを図り、全教職員で徹底した情報と意識の共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学者選抜業務、成績関連業務において事故0を達成できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> マニュアル等の見直しを行い、入選委員会の協力により職員の協力を得るとともに、事故の未然防止を徹底し業務を遂行することができた。 成績処理業務においても事故の未然防止を主眼に置いたマニュアルの徹底と職員間の情報共有を図り業務を遂行することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学者選抜業務については今後の動向や様々なレベルでの検証をもとに改めてマニュアル等の見直し改善を図る。 成績処理業務については慣れによるミスにどう対応して行くかが課題となる。 保護者との連携は担任を中心に綿密に行われているが、より組織を意識した対応を追及して必要もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨今の学校を取巻く現状を見ると、新採用をはじめとする若手教員が孤立しがちで自分ひとりで頑張らなければならない状況が多く見受けられる。若手教員が育つ学校を目指すべきである。 女子トイレの汚れが気になる。いろいろな機会を通じてトイレをきれいに使うこと、清潔を保つことの意識付けができればよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 機会に応じた事故防止の啓発活動に継続的に取組むとともにマニュアル等を現実に即し検討を重ねた結果、大きな事故が起きることはなかった。綿密な現状分析を通じて業務改善を進めて行きたい。 校内美化に対する生徒の意識はかなり高いといえる。更に生徒一人ひとりの自発的主体的取組が進むよう日常の清掃活動を大切にしたい取組を続けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き事故の未然防止を主眼においた啓発活動やマニュアルの整備を進めて行く。 若手教員に対する助言指導を充実させていく。 保護者を含め学校をあげての校内美化活動を更に進めて行く。